

好評発売中

きれいに書くには コツがある



光村図書出版株式会社

●注文は、お近くの書店 または弊社ウェブサイトで。
www.mitsumura-tosho.co.jp



新・字形と筆順 改訂版

宮澤正明 編
四六判／352P
定価 1,800 円＋税
ISBN978-4-8138-0044-6

- 新学習指導要領の学年別配当に対応
- 常用漢字（2136字）すべて筆順付
- 新たに音訓索引を設け、漢字の検索が容易に
- 書写教科書と同じ書き文字で掲載
- 日常に役立つ、毛筆楷書、硬筆楷書、硬筆行書の3種を提示
- 字形のポイント、許容についての図示
- 堅牢で汚れにくく、開きやすい塩ビ製の表紙

本誌は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、「社」教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり配布しております。

特集

『枕草子』再研究

巻頭
エッセイ
不意の意識
広上淳一

デジタル
二年間使ってみて
見えてきたこと

書写
「行」を
整えよう

ブック
ガイド
ルロイ先生への
「弔辞」

平成30年度用教科書訂正箇所

国語教育相談室

中学校
no.
86

光村図書



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.182 2018(平成30)年4月21日発行
発行人＝小泉 茂 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝株式会社 加藤文明社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

方言ネタ

早稲田大学教授
森山卓郎
もりやま たくろう

学校で使う言葉にも方言差がある。例えば「模造紙」。熊本県や佐賀県などの九州の一部は「広用紙」という。愛媛県では「とりのご用紙」、新潟県では「タイヨ―紙」(表記はいろいろ)、岐阜県や愛知県では「B紙」、富山県は「ガンピ」、というように様々な言い方がある。学校は地域に根ざしているのだ。「花曇りの向こう」(瀬尾まいこ／一年)は、関西方言の地域に転校してきた、共通語を話す主人公の「僕」が、新しい学校になじめないという設定から始まっている。一人称も、となりの席の「川口君」は「俺」なのに、主人公はなんとなくヨソイキ風の「僕」だ。川口君が声をかけてきてくれるものの、せっかくの花曇りの話題でも、「あ、ああ。そうなんだ。」というように会話が続かない。会話の仕方には地方差があるし、アクセントなども意識してしまうのだろう。しかし、後半、ちよっとした変化がある。その川口君と偶然

駄菓子屋さんで出会う。しかも「梅干しのお菓子」が共通の好物ということがわかって共に買い求めるのだ。このときも会話そのものは、「僕も小さいころから食べてた。」「そんなや。」「うん。そう。」「そっか。」のよう「たどたどしい」。確かに、この「うん。そう。」はあかん。例えば大阪風なら、こころで、「いやー赤ちゃんの時からおっぱい飲む時のツマミが梅干しやってん」などとボケを力マして、「なんでやねん」とツツ」んで貰うところだ。

も、僕が手に提げた小さなふくろの中にはあまずっぱい梅干しがちゃんととなっている。「ぎこちない」という描写と曇りの心象風景に対して、逆接で接続されている。「ちゃんと入っている」というプラス表現的な修飾もある。今度はうまく仲良くなれそうな予感がある。そう、「花曇り」の「向こう」には何かちよっとした変化の兆しがありそう。

「とっかかり」ができないことの描写、最初にも出てくる梅干しのモチーフ、活動的な「ばあちゃん」の描き方と何気含蓄のある言葉、「花曇り」という「曇り」だが春を思わせる言葉。新学年が始まったころの転入生の気持ち、さりげなく描かれている。「僕」と川口君はいい梅干し友達になれそう。だ、ま、ツツ」ミ三年ボケ八年。慣れるには時間がかかるもの。あ、そつそう、「模造紙」みたいな方言ネタも実は転校生にはええ話題になるんやで。

CONTENTS

探検！言葉の森 35 方言ネタ 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 不意の意識 広上淳一

特集 04 『枕草子』再研究

エッセイストの資質 酒井順子
清少納言のたくらみ 山本淳子
小学校の実践 私の「春はあけぼの」を書こう(5年) 青山由紀
実践1 「をかし」って何だろう? 関口益友
実践2 平安京にタイムトラベルして、描かれた世界を捉えよう 神崎友子
実践3 『枕草子』でシナリオを作り、演じよう 石村由里

デジタル教科書 審閲記 最終回 16 2年間使ってみて見えてきたこと 渡辺光輝

先生のための 板書講座 最終回 20 「行」を整えよう 坂井孝次

22 平成30年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

授業に役立つ ブックガイド 2 24 ルロイ先生への「弔辞」——人物像を捉える一つの方法—— 甲斐利恵子

不意の意識

指揮者

広上淳一

昔の駅には「伝言板」というものがありました、昨今の「あたりまえ」である携帯電話が異次元の道具であった超アナログ時代では、駅で待ち合わせしつつも出会えない時、この想いを相手が目にとめてくれることをただ「祈り」、願望の境地に任せこの伝言板に「メッセージ」を残し、その場を離れるのです。もちろん、この伝言板は今の時代のように「既読」を通知してくれる便利なシステムなど備わっておりませんので、未読既読はアナログ時代にありがちな心に宿る期待と不安に包まれます。それでもこの場所ですら自分が相手のため、そして自分のために一番伝え残すべき言葉を残していくのです。

きっと誰でもそうだと思いますが、学生の頃は毎日不安と添い寝するような暗中模索な日々ですので、類に違わず私自身も回りのすべてが大きく見えて理屈なく混沌としておりました。そんなある日に近くの駅にあるこの伝言板に無意識に

ふと目をやったのです。いつもは気にもかけず通り過ぎていた伝言板。この日は何故かその伝言板に不思議と呼び止められたかのようでした。そこには決して丁寧とはいえない文字面で、こう書かれていたのです。「先に行って待ってます。」

完璧なまでの伝言。なんの変哲もない言葉です。書き手「語り手」の名前も記されておらず、無論全く知らない方ですので私宛でないことは明白です。けれど不思議にこの言葉が「心の暗闇探検家」の私の感情に一筋の光を届け、非常口の看板のように「出口はこちら」と指し示すような感覚を覚えました。「先に行って待つ

ていてくれるんだ」と。

未来とは自分の手でもがき、触れて、つかんで、たぐり寄せるもの。未だ腕力に自信もなく、その使い方もわからず塞ぎ込む孤独感の中、「先人が待っていてくれるんだ」と、ある意味この私の「都合のいい解釈」が、もがく「理由」を教えてくださいました。あたたかも神様が伝言板に書きなぐってくれたように。

もちろん記載の主は神ではなく、誰かに生きるヒントをと、このありきたりの言葉を書き残したわけでもありません。意に介せず全く知らないところで、会ったことのない人に、想像を絶する影響を与える。言葉とは、国語辞典に羅列される本来の輪郭から立体的に膨らみ、読み手の感情で表情を変え、思いがけず人を救ったり、傷つけたりする。人間が創作した多面的な解釈を伴う伝道師なのだと思います。

つアナログ的感情をくすぐり、その言葉の創り出す感情と背景は千差万別で同じものはきつとありません。

音楽も言葉もそれぞれ受動者に感情を伝え、組み立て、鍛える道具であることは間違いにないにしても、一方で感情という個人的な受信機を経由すれば、いずれも唯一無二の確固たる背景を提示することはできないアナログな存在となるので、自分の「良かれ」が実は思いがけない表情「刃」になることすらある危険な道具だと認識する必要があるのだと痛感します。ですからせめて「語り手」「奏で手」は、

その届けるべき「音符」や「単語」に私たちの解釈を「気持ちを含めて」「責任を噛み締めて」「誠実に」「丁寧」に発信させなければと思うのです。

「先に行って待ってます。」あの伝言板の言葉通りに、私の諸先輩や恩師たちは先の方から私を導き、そして今もなお、私を待っていてくれるような気がいたします。そして、私を師と認めてくれる学生に対しても、私は今、憧れの高みではないにせよ、せめてこの場所とこの感情で「待つて」みようと思います。

ところで、本当にあの伝言板に渾身のメッセージを残した方は、先に行かれた後出会えたのだろうか、今更ながらにふと思います。たとえその時は出会えてなくても、これも素敵な思い出話として過去の記憶の中で永遠に言葉と背景、そして感情を「語り続けて」もらっていいんじゃないと思います。その思い出にクラシック曲が流れていけば、私も報われま

感情含みで判断するとささ思っています。言葉には音楽よりも、伝えるべきものを形容詞などという手触り感のあるいかにも「感覚にお化粧」をする道具もあるのですが、それでも単語と単語の間に潜むニュアンスすらも聴き手と語り手の持

広上淳一
ひろかみじゅんいち

1958年、東京都生まれ。京都市交響楽団常任指揮者兼ミュージック・アドヴァイザー、札幌交響楽団友情客演指揮者、東京音楽大学指揮科教授。東京音楽大学指揮科卒業後、1984年、第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールに優勝し、国際的な活動を開始。国内外の名だたるメジャー・オーケストラへの客演を展開し、数々の名演を残している。2015年に京都市交響楽団とともにサントリ音楽賞を受賞。

©Greg Sailor

特集

『枕草子』再研究

小学校の古典学習でも親しまれている『枕草子』は、これまで数多くの実践が積み重ねられてきた教材。本特集では、この作品に新しい光を当てることを目指しました。

近年、『枕草子』の新訳を発表されたエッセイストの酒井順子さんと、『枕草子』のたくらみの著者で研究者の山本淳子先生には、『枕草子』を巡る文章を寄せていただきました。それと合わせて、小学校を含めた四つの実践提案を通し、あらためてこの作品の魅力に迫ります。

エッセイストの資質

エッセイスト
酒井順子^{さかき じゅんこ}

「すべてのエッセイは自慢である」と、故・井上ひさしさんがお書きになっていたのはまったくその通りで、たとえば「こんなものを食べた」「こんな人に会った」といった体験を書くことは、今風に言うなら「リア充アピール」なのです。

ハッピーな体験ばかりがエッセイの題材になるわけではありません。ハッピー尽くしでは自慢臭が強すぎて、芸にはならない。読者は執筆者のアンハッピーな体験をも望んでいるわけで、「私はこんな不幸をも面白く書くことができる」という自慢を、我々はしばしばしているのです。

エッセイ界の大先輩である清少納言は、「自慢しい」な性質であるとされています。「私はこんなに教養がある上に機転がきくから、エリート貴族からも好かれていた」といった自慢話がそここに。紫式部などは、清少納言のそんな性質を、激しく憎んでいました。

しかし清少納言が自慢しいであるにもかかわらず『枕草子』が千年後の今も読まれ続けているのは、そこにはよく不幸自慢も織り交ぜられているからなのではないかと、私は思います。

たとえば「羨ましげなるもの」の段では、伏見稲荷に参詣に行った時、のろろ歩く清少納言の横を、平気な顔で追い抜いていく中年女のこと記されます。清少納言は、暑い中で歩くのがつらいあまり、涙まで流しているのに、中年女は平然とした様子。清少納言は「あんな風になりたい……」と、情けない思いをしているのです。

はたまた、自分の元夫がどんなにつまらない男かというだめんず話、今ひとつな自分の容姿についてのブス自慢など、読者に親近感を持たせる不幸話もしばしば登場。日本随筆界の祖は、自慢と不幸自慢のバランスの取り方を、知っていました。

エッセイを書く人は、ある種の不幸運を



1966年、東京都生まれ。エッセイスト。高校在学中より雑誌にコラムを寄稿。大学を卒業後、広告代理店勤務を経て、執筆専業に。『負け犬の遠吠え』で講談社エッセイ賞、婦人公論文芸賞を受賞。2016年、『日本文学全集』（河出書房新社）で『枕草子』の新訳を発表。著書に、『枕草子 REMIX』（新潮文庫）など。

清少納言のたくらみ

京都学園大学教授 山本淳子^{やまもと じゅんこ}

自分にとって大切な人が苦境の中にいる時、どのような言葉をかけるだろうか。もしもその人が若くして世を去ってしまったら、その後は心の中でどのように語りかけ続けるだろうか。『枕草子』は、清少納言が仕えて敬愛した皇后定子のために、そうした思いを込めて記した作品である。しばしば作者の個人雑記と見られがちだがそうではなく、制作は定子の命で始められた。だが定子は悲劇に見舞われ、やがて早世した。初段「春はあけぼの」の、闇に朝の光が差し始める瞬間の光景は、そんな定子に対する清少納言からの労りであり、祈りだったのである。

清少納言が定子に仕え始めた頃、定子は一条天皇の唯一のきさきで、熱く愛されていた。父は関白で、家は栄華を極めていた。ところが二年後、父が死に、翌年には兄弟

が愚かな罪を犯す。

処罰は流罪。逮捕を嫌がって兄弟のたてこもる邸には、野次馬の群がる中、検非違使が搜索に踏み込んだ。絶望した定子は、その場で衝動的に出家した。すべて、当時の貴族がリアル

タイムで日記に記した事実である。女性の出家は当時、魂の自殺にも等しい行為だった。栄華の極みから没落へと、定子の人生は急転した。そして清少納言が集中して『枕草子』を執筆したのは、こうした事件の起きた後のことだった。状況の悲惨さゆえに、作品は逆に明るく作られたのだ。

作品制作の計画が持ち上がったのは、定

「枕」の制作を委ねたのである。

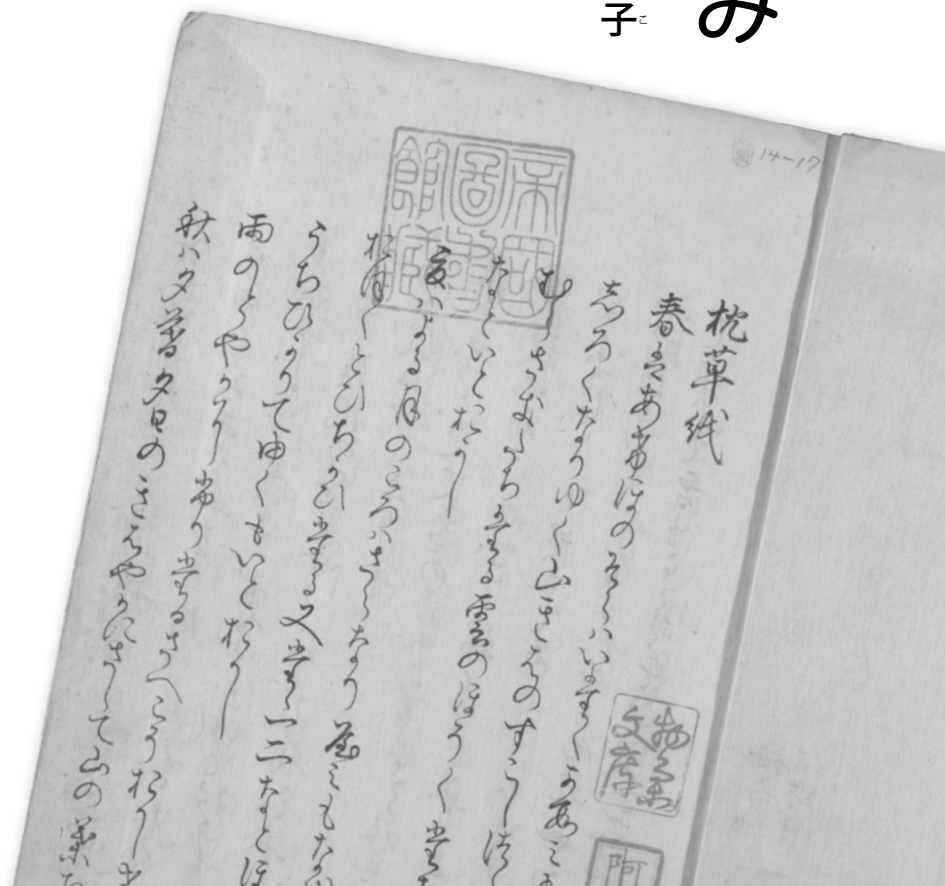
不幸にも、清少納言が本格的な執筆に取り掛かる前に、定子は悲劇に見舞われた。だが『枕草子』制作計画は途絶えはしなかった。定子は再び清少納言に紙を与え、清少納言は定子に伝えて第一期『枕草子』の献上に漕ぎつけた。だがその四年後、結局定子は二十四歳の若さで崩御した。最後まで天皇に愛され続け、娘の彰子を入内させた藤原道長からはそのためにいじめられ、貴族社会で孤立する中の死だった。

今、私たちの知る軽やかなタッチの随筆『枕草子』が、こうした苦しみに満ちた背景から誕生したことを、作品にふれる皆に知ってほしいと、私は思う。だが、清少納言は余計な事と嫌がるだろう。彼女が『枕草子』に込めたたくらみにとっては、それは余計な邪魔立てに他ならないからだ。清少納言は定子の死後も『枕草子』を書き続けた。一つには定子への鎮魂、一つには悲劇の人という定子のイメージを作品によって塗り替えるためである。『枕草子』の中では、定子はいつもにこやかに笑っていて、まるで人生に影一つなかったかのようだ。定子の死後、清少納言はそんな定子のエピソードを、ブログのように書いては周囲に送り続けたと思う。その際、権力か

子がまだ栄華にあった頃である。『枕草子』の跋文（あとがき）によれば、定子の兄・伊周が、上質な白紙を冊子に仕立てて定子に献上した。定子はこれにどんな作品を書き写そうか、『古今和歌集』にしようかと清少納言に相談、清少納言は冗談で「枕にしたいものです」と答えた。冊子がよほど分厚かったからだろう。しかしこの一言が

ら作品を守るため、道長によるいじめは微塵も記さなかった。人々は安心して『枕草子』を手に取り、気に入れば書き写しては次々「拡散」した。十年も経ぬうちに世間は定子後宮の高い文化を懐かしむようになり、それは彰子に仕えた紫式部をおびやすまでに至った。清少納言のたくらみは成功したのだ。現行の『枕草子』は、定子生前の献上版と定子死後のブログ版をまとめて清少納言自身が編集し直したものである。今や、教室で定子の不幸が語られることはあまりない。が、それこそが清少納言のたくらみが功を奏している証拠だ。実に巧妙な、そして健気な作品。それが「春はあけぼの」なのである。

▶『枕草子』（異本）冒頭
（画像：国立国会図書館ウェブサイト）



特集

『枕草子』
再研究



1960年、石川県生まれ。京都学園大学文学部教授。京都大学文学部卒業後、高等学校教諭などを経て、99年京都大学大学院人間・環境学研究科修了、博士号取得（人間・環境学）。『源氏物語の時代』（朝日新聞出版）で第29回サントリー学芸賞受賞。著書に『枕草子のたくらみ』（朝日新聞出版）など。

私の「春はあけぼの」を書こう (五年)

筑波大学附属小学校教諭 青山由紀

1 はじめに

『枕草子』の魅力の一つは、作者である清少納言のものの見方・考え方のおもしろさにある。第一段「春はあけぼの」はそれに加え、情景描写や文体の美しさが際立っているように思う。小学校五年生の子どもたちには、まず、この作品世界を存分に味わわせたい。それには、ただ声に出すだけではなく、情景を頭の中に思い描きながら音読・暗唱することが欠かせない。それにより、この美しい言葉の響きやリズムをより深く体感させることができるはずだ。現代にも四季折々の美しさはあり、子どもたちにも、自分なりの「をかし」を感じる物事がある。それらをもとに自分流『枕草子』を書く(翻作する)ことで、本作品の内容・表現の特徴や、自分と清少納言の見方・考え方の違いに気づくことができるだろうと考えた。

2 指導計画 (全四時間)

■目標

○音読・暗唱をすることで、歴史的仮名遣いや古典の語句に慣れ親しみ、内容の理解を深める。

○翻作することを通して、自分と昔の人とものの見方・考え方の違いに気づく。

■展開

第一時 現代語の「おかしい」の意味を考え、『枕草子』に興味をもつ

・マッピングを使って、「おかしい」の意味を整理する。

・「おかしい」を国語辞典で引き、古典語(文語)の「をかし」の意味に気づく。

第二時 『枕草子』第一段を読む

・「春」「夏」の原文を音読して、歴史的仮名遣いについて理解し、書かれている内容を確かめる。

3 指導の工夫・学習の実際

①意味の違いから興味を喚起する(第一時)
古典語の「をかし」は、現代語の「おかしい」と音や形のうえでは似ているが、微妙な意味合いは異なる。授業では、その違いに着目させることで、古典への興味を喚起したいと考えた。そこで、「おかしい」

を中心語として、その意味についてマッピングで整理していった。

その後、各自の国語辞典で「おかしい」の意味を確かめたところ、「をかし」に触れたり、『枕草子』につなげたりして解説する辞書があった。子どもたちは、「『おかしい』と違って、『をかし』にはよいイメージの意味しかないようだ」「『枕草子』とは何か」などと、「をかし」という言葉や『枕草子』に興味を寄せていった。このように、関心が高まってから作品に出会わせただけで、彼らは、清少納言のものの見方・考え方に自然に着目し、楽しんでいたように思う。

②続きを予想した後に読ませる(第二時)

第一段の「春」「夏」を読んだ後、その続きを予想してから「秋」「冬」を読むようにさせた。これは、一度立ち止まって考えることで、内容や表現の特徴に気づいたり、「自分だったら」という思いをもって読んだりしてほしいという意図による。

「春」「夏」を読んだところで、子どもたちからは、次のような発言があった。

- ・この後に「秋」があるはず。
- ・「秋は○○」で始まる。
- ・「○○」には、時間を表す言葉が来る。

4 おわりに

今回は第一段のみを教材としたが、学年によつては、これに加えて「うつくしきもの」などの類聚的章段を一つ取り上げて翻作することも考えられる。知識や経験が少ない小学生には、『枕草子』から平安時代特有の感覚や価値観まで感じ取ることは難しい。しかし、「わからないもの」を楽しめる時期であるため、内容をきちんと理解できなくても、清少納言のものの見方・考え方のおもしろさを味わうことはできる。

中学生には、また違った読み方・感じ方ができることだろう。

人生の中で何度も違った楽しみ方ができるのが古典のよさである。小学校は、その幸せな出会いをつくる段階であるという思いをもち、古典の授業に臨んでいる。(談)

▲▲自分流『枕草子』の作品例。時間に余裕があれば、文章に合った絵を添えるのもよい。



夏は夕立
強き雨足の音に聞いているはいと
すずしげなり、雨ふりおわりて
空に虹がかかるはをかし。
傘持ち忘れぬれになるは
わろし。

「をかし」って何だろう？

見方・考え方を育む古典の授業

神奈川県相模原市立小山中学校校長

関口益友

1 はじめに

古典といえば「暗唱」「文法」という授業が多い。しかし、本稿では、生徒を「より深い学び」へと導く授業を提案したい。つまり、「春はあけぼの」の後には『をかし』が省略され、『をかし』は『情趣がある』と訳す」と教える授業からの脱却である。それは、「をかし」と書かずに言い切る原文を大切にすること、読者が作品に入り込み、さまざまに想像できるようにすることを意味する。「より深い学び」は、生徒の次の学びを作るという本来的な評価につながり、古人の心に思いをはせるという目標の達成につながるものである。

2 指導計画（全三時間）

■目標

○古人の心に思いをはせ、自分たちと同じ

3 指導の工夫・学習の実際

① 音声を通して古典と出会う

まずは声に出して読むことを大切にしたい。授業の中では「暗唱」を必ず行ってきた。生徒がおもしろがって取り組むのはも

感性をもっていることに気づく。
○気づきをもとに話し合い、内容に迫る。

■展開

第一・二時

- ・音声を通して「春はあけぼの」と出会う。
- ・古典の文章の特徴をまとめる。
- ・現代語訳を味わう。

第三時

- ・比較読みで「をかし」の意味に迫る。
- ・学習を振り返る。

ちろん、出身小学校が複数ある場合に、覚えてきているかどうかなどを教師が確認できるよさがある。春夏秋冬と暗唱を区切り、苦手な生徒もそれなりに達成感を味わえるよう配慮したい。

② 古典の文章の特徴をまとめる

古典は一年生でも学習するが、文語文と口語文の違いには、生徒もとまどうことが多い。その違いや、「変だなあ」と思うところを付箋紙に書かせ、グループで話し合わせると、教師が気づかないような疑問も多数挙がる。なぜ「やうやう」を「ようよう」と読むのか。なぜ「の」を「が」と訳すのか。「いと」なんて今では使っていない。こんな疑問が挙がってきたら、しめたものだ。これをきっかけに古典の特徴をまとめ、教えることができる。

また、この学習をもとに、確認を兼ねて教科書の現代語訳を味わうことで、定着度

を上げることができる。

③ 『枕草子』の他の章段の魅力を味わう

『枕草子』には「めでたきもの」「にくきもの」「虫は」「木の花は」といった「ものづくし」の章段があり、一つのテーマのもと、それに関わるいくつもの事柄が書かれている。ここでは、「うつくしきもの」を取り上げ、「うつくし」をわざと除いた文章を配布し、題名を考えさせる。生徒は考えながらも間違いなく「かわいらしいもの」という言葉を見つける。古典語では「うつくしきもの」と表すが、今の私たちの感覚と同じだと気づくことができる。

④ 比較読みで「をかし」の意味に迫る

「はじめに」で述べたが、『をかし』は『情趣がある』と訳し、『しみじみとした味わいがある』ということだと、私も長年生徒に教えてきた。しかし、「情趣」の意味は漠然としており、わかったようでわからないというのが実態である。そこで提案したいのが比較読みである。「春はあけぼの」と、平成二十四年度版教科書三年に掲載されていた随筆「朝焼けの中で」（森崎和江）とを比較して読む。この作品には、自然の表現力を前にした言葉の貧しさと、言葉に

できない世界があることのいとしさが描かれている。指導のポイントを次に挙げる。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」に

まず生徒に文章を読ませ、気づいたこと、二つの作品に共通することなどを書かせる。すると、次の(2)・(3)にまで気づく生徒も出てくるだろう。そこで、教師と生徒との対話を通して深い学びにつなげていく。

(2) 強烈な夜明けの風景

「春はあけぼの」の春は他の季節と違い、たった一つの場面についてのみ描かれている。それはなぜか。これは、清少納言が頭の中で考えたのではなく、実際に目にした強烈な体験に基づくものではないか。後朝の朝（恋人との別れ）の場面、幼少期の思い出など、生徒もさまざまなことを想像することができる。

(3) 始まりは「春はあけぼの」

『枕草子』は、第一段「春はあけぼの」から始まった。「朝焼けの中で」で、少女がその感動の中から文筆に携わるようになった原体験と、「春はあけぼの」とが結び付くのではないか。

(4) 「をかし」に迫る

ここから行うことは発想の大きなパラダイムである。「この春の夜明けの風景を清少納言は『をかし』と言った。それを私た

ちは『情趣がある』と訳した。それはいったいどんなことなんだろう」。ここまで言う生徒も理解してくれる。景色の美しさ、すばらしさもあるけれど、「心が動かされること」「感動すること」「さまざまなことを思い浮かべたり、ジーンとしたりする気持ち」なんだと、多くの生徒は気づくことだろう。

「をかし」は目に見える美しさ、景色ではなく、心の動きなのだと理解できたならば、国語の見方・考え方が身につく、次の学びに生かせるだろう。それを評価としてい。

4 おわりに

清少納言が仕えた中宮定子の人生は、一条帝に愛されながらも、一族の没落や道長の嫌がらせなどさまざまな困難があった。清少納言は、敵対するものへの恨みつらみを書くことではなく、文化芸術を高めることで定子を必死に守ろうとした。そのキーワードが「をかし」である。この言葉を、形になって表れるものだけではない、心を表すものとして捉えることができたならば、深い学びにつながり、国語の見方・考え方はさらに深まっていくことだろう。

2 実践

平安京にタイムトラベルして、 描かれた世界を捉えよう

京都教育大学附属桃山中学校教諭

神崎友子

1 はじめに

本校は秀吉の城下町、伏見桃山にあり、古典に出てくる場所や地名には生徒の知識やなじみのある所が少なくない。国語科では、このような地の利を生かした古典の教材開発に取り組んでいる。一年では『方丈記』の京都での災害に関する叙述から、近年多発している自然災害との向き合い方を考える。三年では『万葉集』の山城地方で詠まれた歌を学び、地理や歴史の知識と合わせながら古人の思いに心を寄せる。

文学作品に迫る際は、時代や舞台などの背景を理解し、作者の経歴などと結び付けてイメージを膨らませることを大切にしている。特に古典は、今と比べてときに抱く共感やギャップから、生徒の思考が動きだす。このような「時代や舞台などの背景の理解」が古典学習の下地となるという考えと、「タイムトラベル」という言葉で生徒

を引き込みたいという思いから、「春はあけぼの」を教材として、表題の学習を設定した。

学習指導要領の「読むこと」で求められる「評価」や「批評」には、詳細な読解よりも、作品の魅力や指摘したい点などを俯瞰して捉えることが重要である。また、生徒が「深い学び」を得るには、問題解決学習が有効だ。そこで、「単元を貫く問い」を立て、一人一人が作品の価値判断や評価をし、納得できる解を導けるよう工夫した。

2 指導計画（全五時間）

■目標

- 「春はあけぼの」が書かれた時代や場所を考えながら読み、古典の世界に親しむ。
- 文章に表れている作者のものの見方や感じ方、表現について評価する。
- 他者の視点や疑問から学びを再構成し、

考えを広げたり深めたりする。

■単元を貫く問い

「春はあけぼの」ってどんな作品？

■展開

第一・二時 基礎学習（一斉）

- ・作品や作者について知り、内容を理解する。

第三時 探究学習Ⅰ（グループ）

- ・作品の気になった箇所から、「当時の風景」「当時の人々の様子」「作者の見方、感じ方」を考え、話し合う。
- ・単元を貫く問いの解を出す。

第四時 探究学習Ⅱ

- ・グループで話し合ったことや問いの解について、友達からアイデアや疑問を受け、考えを練り上げる。

第五時 振り返り

- ・問いの解や学びを文章にまとめる。

3 指導の工夫・ 学習の実際

①「春はあけぼの」を分析する（第三時）

「平安時代の京都にタイムトラベル」という前提で、小グループで学習する。気になった箇所とそこから考えられる当時の風景や人々の様子、作者の見方・感じ方を表に整理した（ワークシートを配布）。以下、特に興味深かった記述を、注目した表現とともに紹介する。

闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる

「今と昔の違いが顕著に表れているところ。夜になると、今は電灯で明るく照らされるが、平安時代は都でも外は月の光ぐらいで月の出ていないときは真っ暗だった。↓だからこそわずかな螢の光が目が留まり、美しさを感じる。便利になり、忘れていく感覚に気づかされる。」と、当時の夜の様子を想像し、思考を深めたプロセスが感じられる。

昼になりて……わろし

「火桶の火も」に着目し、「わろし」は昼になることを表していて、暖かくなるとみんなで火を囲んだりすることもなく、静かになって日常に戻るのが好ましくないと思っている。清少納言は特別感のある時間

が好きだった!?」と考察している。

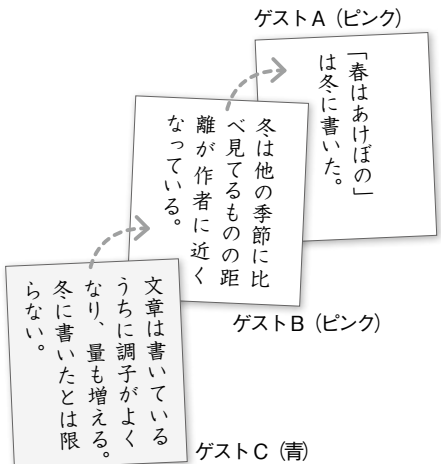
また、「あけぼの」「夜」「夕暮れ」「つとめて」はあるが、「昼」がないことに気づき、「昼は光が強くものがしつかり映って風情がない。清少納言ははっきり見えるものではなく、ぼんやりした時間が好きだったのでは？『をかし』の文学ではなく、『ほかし』の文学！」と考えたグループもあった。

②新たな視点を交えて再考する（第四時）

グループで共有したことを発表し、考えを深めるために、「ワールド・カフェ」のスタイルを取り入れた。この手法は一度に話せる人数は限られるが、会話が滞ることなく、再考の材料となる付け足しや批判的な意見が自然に出る点が良い。まず、グループで前半に説明する人と後半に説明する人に分かれる。前半の人が説明している間、後半の人は、他のグループのテーブルをゲストとして回る。何回か回り、説明者を交代する。ゲストは三色の付箋を使って、「発見・気づき」（ピンク）、「疑問」（青）、「コメント」（黄色）を書く。この付箋を受け、説明者や次のゲストは新たな視点や考えるヒントをもらう。

例えば、あるカフェの発見「春↓夏↓秋↓冬と、文章の量が増えている」については、

左のように付箋が重ねられていった。



4 おわりに

「作者は、遠くのものや目に見えないものややすかに見えるものなど、手の届かないものに憧れがあったのでは」と考えたグループがあった。清少納言は、華やかな宮中での出来事とは異なる静かな憧れを、生徒が指摘したような手の届かない美しいものに求めたのではないだろうか。

「春はあけぼの」は長年授業をしてきた教材だが、作品の価値判断や評価をするという今回の活動は好評だった。古典の世界をイメージし、テキストや友達との対話を通して学びを膨らませる生徒の姿に、今後の古典指導の可能性を感じた。

3 実践

『枕草子』でシナリオを作り、演じよう

総合的に力を育む古典学習

千葉県南房総市立富山中学校教諭 石村由里

1 はじめに

古典学習において生徒一人一人が充実感をもって学習に取り組むためには、どのような授業を行えばよいのか。従来の精読や訓詁注釈だけの授業では「主体的で対話的な深い学び」のためには限界があるといわざるをえない。

本実践は、古典の教材で総合的に力を育むことを意図した。『枕草子』を多読して章段を選び、その章段に基づいたシナリオを作り（翻作）、演じる（動作化）というものである。最終的に発表・批評し合う場を設けることで、言語活動に必然性をもたせたい。「多読」は、多くの文章に触れることで語彙を豊かにし、理解を深めると考えられる。シナリオ作りは、「翻作」といわれる書き換えの言語活動であり、思考を深め、表現力を豊かにする。「動作化」は想像力、思考の深化を促す。学習内容も言

語活動も豊富に含んだ、読む、書く、聞く、話す力を総合的に伸ばす単元構成である。

2 指導計画（全十三時間）

■目標

○教材をもとにシナリオを書き、演じる等の表現活動により、理解・思考を深める。

■使用資料

- ※教科書教材の他に用いたもの
- ・文庫本『枕草子』（原文と現代語訳の両方が掲載されたもの）一人一冊
- ・インターネットから『枕草子』原文（全323段、能因本参考）五冊
- ・『枕草子』関連本（校内の図書館と市立図書館の協力を仰いだ）六十冊程度

■展開

第一～四時

・学習の目標、流れを知る。

- ・序段「春はあけぼの」を季節ごとに、原文四人・現代語訳四人で音読する。
- ・各自選書し、どの章段を選ぶか考えながら読み込む。
- ・三～四人の班編制をする。

第五時

・班内で章段を選び、発表時の表現活動を話し合い、決定する。

第六～十一時

- ・各自シナリオを考え、ノートに書く。
- ・内容を班員で検討し、助言し合ってシナリオを完成させる。
- ・劇・紙芝居・ペープサート等、班の表現方法に合った創作活動や練習を行う。

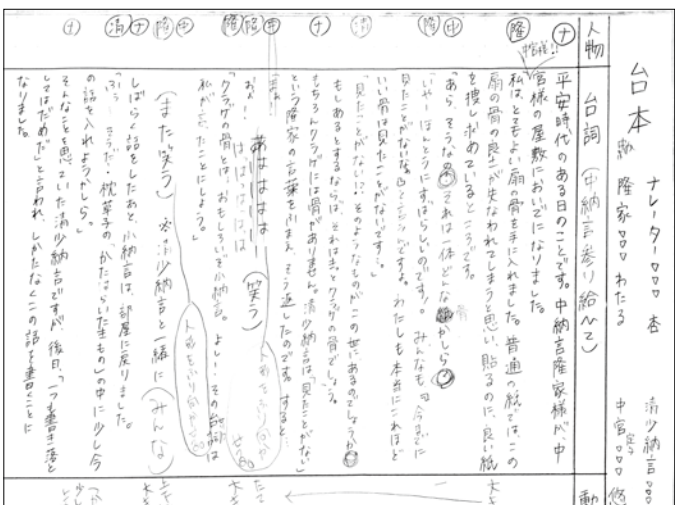
第十二・十三時

- ・発表会を行う（体育館）。
- ・発表を鑑賞し、発表班へのメッセージを付箋に書く。全班的発表が終わったら、付箋を各班に渡す。

3 学習の実際

① 各班（①～⑩）が選んだ章段と表現方法

- ①・③ 第98段「中納言まゐりたまひて」…ペープサート・劇
- ② 第233段「降るものは」…紙芝居
- ④ 第26段「にくきもの」…劇（コント・せりふは録音）
- ⑤ 序段「春はあけぼの」…紙芝居・ペープサート



▲第98段「中納言まゐりたまひて」のシナリオの一部。

② 学習後の生徒へのアンケート結果

○章段選択の際に使用した資料は、「原文だけ」が11%、「現代語訳だけ」が27%、「原文と現代語訳」が62%という結果であり、原文だけを読み続けた生徒がいることは興味深い。現代語訳だけに頼る生徒は想像したより少なく三割程度であり、七割の生徒は原文に目を向けている。

○「清少納言のものの見方や考え方がわかってきたか」については100%が「はい」と答え、次の四点を理由として挙げた。
①話し合いをしたから（解釈のしかた、道具・動き・演技等のアイデア、言葉について）。

②思考したから（解釈のしかた、人や道具の動き、自分たちの今風の言葉に変える、作者の気持ちを想像する、表現活動の選択について）。

③何度も読み返したから（小学校での音

読の経験・意味の理解も）。

④演じたから（演技した、動いた）。

○「今回の学習方法で楽しく、自主的に学習を進められたか」についても、全員が「はい」と回答した。

4 おわりに

生徒の状況や学習後の感想から、主体的に学びに取り組んでいたことがわかる。章段選びやシナリオ作りの中で、『枕草子』に関連する多様な本を読み続ける（多読）。繰り返し教材と対話しながら多くの文や言葉に出会い、仲間と対話する中で自己の感覚とは違う新しい捉え方に出会い、語彙が豊かになっていく。作者の意図や心情を想像しながら思考し、現代の言葉に書き換える（翻作）。そして、仲間と話し合い、創作した劇や紙芝居等を演じることににより（動作化）、理解・思考がいつそう深まっていった。

今後、精読や訓詁注釈の授業も実施しながら、今回のような授業も学期に一回は実施していきたい。そのために、行き届いた教材研究や年間計画の工夫をし続けることの必要性を改めて感じている。



千葉県生まれ。千葉大学大学院修了。千葉県の公立中学校教諭、千葉大学教育学部附属中学校教諭を経て、現職。共著書に『中学生を作文好きにする！新レシピ60&ワークシート』（明治図書出版）など。

二年間使ってみて見えてきたこと

いよいよ最終回。二年前にデジタル教科書と出会って変わった私の授業について、そして、これからデジタル教科書を活用していくためのポイントや課題をまとめました。

1 最終回のごあいさつ

おとし、一年生を迎え入れると同時に私のデジタル教科書との「奮闘」もスタートしました。初めは指導者用デジタル教科書を使える環境が、その後、生徒一人一台のタブレット端末で学習者用デジタル教科書を使える環境が整い、私の授業は大きく変わりました。

「デジタル教科書が学習にうまくはまった」と感じることも、「もっとうすればよかったかなあ」と感じることもありました。二年間使った結論として、デジタル教科書は今の私の授業に「なくてはならないもの」になります。最終回の今回は、これまでの実践を振り返り、私なりのデジタル教科書活用のポイントをまとめたいと思います。

2 気軽に使える状態にする

デジタル教科書導入の最初の「奮闘」は、毎時間、教室でスムーズに使用できる状態にするということでした。

皆さんの学校では、指導者用デジタル教科書をどうやって提示していますか。プロジェクタ？ 電子黒板？ 本校では、各教室につり下げ式のプロジェクタとスクリーンがあり、それをパソコンにつないで電源を入れるだけで投影できる環境になっています。電子黒板などを移動する手間はかからないので、かなり楽なほうだと思えますが、それでも準備がいるのには違いありません。

やはり、デジタル教科書の普段使いをするための一つのハードルは、十分間の休み時間のうちに、素早くセッティング

3 「いざー」という場面で

授業では、毎時間デジタル教科書を使っていたわけではありません。でも、これまで連載してきたとおり、次に挙げるような資料やツールを「ここぞー」という場面では必ず使うようになりました。

① 魅力的な動画・画像資料

一つ目は、魅力的な動画・画像資料で

す。デジタル教科書にはたくさん動画や画像が収録されています。例えば、教材の書き手が登場する動画があります。「野原はうたう」（二年）では工藤直子さんが詩の朗読を披露しています。これを活用して音読の授業を作りました（本誌81号掲載）。

「君は『最後の晩餐』を知っているか」（二年）では、紙の教科書にも「最後の晩餐」の絵が載っていますが、デジタル教科書には、弟子の名前を確認できる画像があります（図1）。この資料を、最初の学習活動で使うことにしました。「この



図1 資料「キリストの弟子たちの名前」

絵の中に、キリストを裏切った弟子のユダがいます」と問いかけると、生徒は「誰だろう」と、一気に絵に引き込まれていました。

そして、この教材にも、筆者が中学生に向けて「なぜ私は『かっこいい』という言葉を使ったと思いますか」と問いかける動画があります（図2）。これを使うことで、「表現の意図や効果」についての学習に、すっと入ることができました。さらにもう一つ、有効に活用できそうなのは「話す・聞く」教材の動画資料です。「話し合って考えを広げよう」（二年



図2 ワーク「布施英利さんからの問いかけ（前編）」

② 学習プロセスを丁寧に確認できるツール

もう一つは、学習プロセスを一つ一つ確実に押さえたときに使えるツールで



図3 ワーク「【解説あり】パネルディスカッションの例」

す。例えば、要約のしかたを確認したいときは「黒板ツール」の出番です。これを使って、本文中のキーワードを抜き出し、それを取捨選択してまとめるというプロセスを丁寧に確認できました。

また、文章全体の構成を確認したいときには、全文表示画面で俯瞰しながらまとまりごとに色分けして整理します。さらに、「文章の構成を考えよう」というツールで段落の分け方を考えたり、見出しを付けたりする学習ができました（本誌82号掲載）。

古文の音読・暗唱をしたいときには、「原文と現代語訳」「暗唱してみよう」の二つのツールが便利でした。朗読音声を何度も聞き返したり、レベルを変えて暗唱に挑戦したりすることができ、生徒は繰り返し取り組み、音読・暗唱に習熟していききました（本誌84号掲載）。

4 見えてきた 活用のポイント

このように、さまざまな場面でデジタル教科書を使ってみると、しだいにその活用のポイントが見えてきました。

連携させていくことです。それによって、効果を倍増させることができます。

例えば、「平家物語」（二年）の学習では、デジタル教科書を使って音読練習をした後、「ロイロノート」というマルチメディア共有アプリを使って、各自の音読を録音するという取り組みをしました。デジタル教科書に録音機能がないなら、他のツールと連携させればいいのです。それができるのがICTのよさです。せっかくパソコンやタブレット端末を使って授業をしているのですから、それを「デジタル教科書専用機」として使うのはもったいないと思います。

デジタル教科書を導入することとは、同時にパソコンやタブレット端末などのハード、ワードやパワーポイントなどのソフト、インターネットも活用できるということでもあるのです。

③ 選択肢を広げるという意識をもつ

デジタル教科書があれば、紙の教科書はいらなくなるのかといえば、そんなことは決まっています。私は、デジタル教科書などのICTと「乗り物」はよく似ていると考えています。移動するためには歩いてはいけませんが、車があれば

① 生徒が使い方を工夫していく

一つは、デジタル教科書の使い方を生徒自身がアレンジしていくことです。ここでは学習者用デジタル教科書を想定して述べますが、指導者用デジタル教科書でも考え方は同じです。

デジタル教科書には書き込み機能があります。この書き込み機能を使う際に、「○ページの○行目の……」という言葉は大事だから、ここに線を引きましょう」という使い方をするのであまり意味がありません。それよりは「自分で大切だと思うところにまず線を引いてみましょう。色分けもできるね」と指示をするほうが、生徒の頭はずっと「アクティブ」になります（本誌83号掲載）。

また、「登場人物の関係を整理しよう」や「文章の構成を考えよう」というツールがあります。これらを「このとおりにとめてごらん」と示すために使うのではなく、生徒が自分なりにアレンジし、工夫しようとするような使い方をしたほうがいいようです（本誌85号掲載）。例えば、「蓬菜の玉の枝——『竹取物語』から」（二年）では、ツールを使って「五人の貴公子についての動画を見て、五人のランキングを考えよう」という学習を行いました

とても便利です。しかし、車があるから歩くことはなくなるかといえば、そんなことはありません。移動するための「選択肢」が増えたということです。

デジタル教科書やICTが整った教室はまさに「選択肢が豊富な」教室です。早く移動したいときには車を使い、道のりをじっくり味わいたいときには一歩一歩、自分の足で踏みしめる。このような目的に合った移動＝学びが可能になるのが、ICTを活用した教育の特徴です。これからの授業には、多様なツールやICT環境を生かした学習のデザインが求められていくのだと思います。

5 デジタル教科書は、現場 が作り上げていくもの

私は、世の中の変化に合わせて、学校も変わっていくべきだと考えています。社会でICTが当たり前に使われている以上、子どもたちの言語活動でも、それが自然に取り入れられていくべきでしょう。だから、百年前と変わらず、紙の教科書だけを使って、「選択肢がたった一つ」の状態にいるのは、残念なことだと思います。諸外国と比較しても、日本の

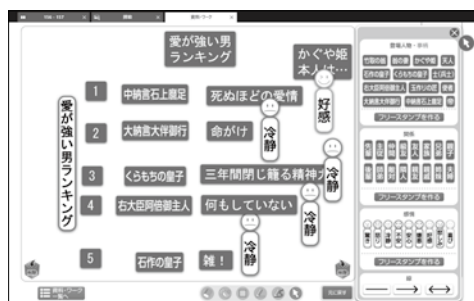


図4 ワーク「登場人物の関係を整理しよう」

た。生徒は自分で自由にオリジナルのスタンプを作り、工夫して自分の考えを表現するようになっていきました（図4）。

子どもたちは、大人よりもずっとICTへの親和性は高いので、使い方を全て一から教える必要はないと考え、必要はありません。生徒がユニークな使い方をしていたら、「どうしてそんな工夫をしたの?」と意図を引き出し、他の生徒にもどんなアイデアを広めていくようにしていきました。

② 他のツールと連携させていく

もう一つのポイントは、デジタル教科書を活用する際に、それ以外のツールと

教育でのICT活用は、決して進んでいるとはいえないそうです。

デジタル教科書を準備するにはちよつと手間がかかります。使ってみて、足りない要素も見つかるでしょう。しかし、社会でICTが使われているのと同じくらい……とまではいなくても、少しずつでも教室に取り入れて、新しい風を入れていくことは、私たちよりも、この先の未来を生きていく子どもたちにとって必要なことではないでしょうか。

デジタル教科書の導入について、どの学校もまだ手探りの状態だと思います。よりよい使い方を発見するのは、子どもたちだけではありません。先生方も、オリジナルの使い方を工夫し、どんどんアレンジして「学習の選択肢」を増やしていきたいものです。そうして、デジタル教科書を活用した、新しく、多様な、そして何よりも楽しい授業の姿を、現場から積極的に発信し、共有していくことが大切なのです。

そんなことを考えて、私もデジタル教科書と楽しく「奮闘」しながら、言いたいことを言わせてもらった全六回の連載でした。お読みいただいた皆さま、ありがとうございました。

国語 平成30年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成30年度用教科書では、平成29年度用教科書から以下の箇所を訂正いたします。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意くださいようお願い申し上げます。

なお、教科書の訂正に伴いまして、教科書紙面やその内容を含む各種指導書につきましても、訂正を必要とする箇所が生じます。合わせてご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

学年	ページ	行など	29年度	30年度
1年	74	脚注9	日本やアメリカ、ロシアなど世界十五か国が協力して建設された有人実験施設。	日本やアメリカ、ロシアなど世界十五か国が協力して建設した有人実験施設。
	92	2段目4	茨木のり子 他編	茨木のり子 他編
	142	脚注7	旧暦八月は、現代の十月ごろにあたる。	旧暦八月十五日は、現在の九月から十月ごろにあたる。
	155	4段目5	自ら巣に行き、子安貝を取ろうとするが、手にしたと思った瞬間はしごから落ちてしまう。	自ら巣の中の子安貝を取ろうとするが、手にしたと思った瞬間、落ちてしまう。
	183	4	耳を澄ませてみてほしい。	耳を澄ましてみてほしい。
	33	出典欄3	適切な表現を通して、	的確な表現を通して、
2年	73	筆者欄	大岡 信 一九三一（昭和六）――	大岡 信 一九三一（昭和六）――二〇一七（平成二九）
	196	1	帰って来い。	帰ってこい。
	219	3	凜とした	凜とした（正字に）
	277	注③3	「五重塔」は一九九一年に書かれた。	「五重塔」は一九九二年に刊行された。
3年	28	著書欄	「父と暮らせば」	「父と暮せば」

57	修学旅行記の紙面例左下	A.心静かに座り、精神を集中させる修行方法です。	A.心静かに座り、精神を集中させる修行方法です。
68	脚注7	行脚 僧が修行のために諸国を巡り歩くこと。	行脚 僧が修行のために諸国を巡り歩くこと。
142	13	(恋歌上)	(恋歌二)
147	下8	三里に灸をすえる	三里に灸を据える
166	下10	〈例〉新聞〔シン・ブン〕→音・音	〈例〉新聞〔シン・ブン〕→音・音
265	3段目（『日本文学』欄）6	五重塔〔幸田露伴〕一九九一	五重塔〔幸田露伴〕一九九二



児童文学の冒険

飛ぶ教室

年4回（1・4・7・10月25日）発行

最新号

第53号（2018年春）

特集「『好き』の気持ち」

定価：本体1,000円＋税／ISBN978-4-8138-0045-3

like, love, favorite……。14名が書き下ろす、「好き」の気持ちの物語。

〈表紙〉阿部海太
〈詩〉「好きの後」最果タヒ
〈童話〉「火がこわいしょうぼうしゃ」山崎ナオコーラ
「りすねえさんのさがしもの」大久保雨咲
〈短編〉「犬のすきなばくとおじさんとシロ」山本悦子
「インスタントカメラ」濱野京子
「呪いの女・矢内愛」行成薫
「好きって、きつい。」ひこ・田中
〈短歌〉「インディゴ羊羹」雪舟えま／服部真里子×木下龍也
〈エッセイ〉黒田龍之助／朝比奈あすか／杉江松恋

光村図書出版株式会社

ルロイ先生への「弔辞」

——人物像を捉える二つの方法

使用教材…「握手」（三年）

授業づくりに役立つ本、授業とからめて生徒に読ませたい本などを紹介するリレー連載。今回のご担当は、甲斐利恵子先生（港区立赤坂中学校教諭）です。

【ねらい】

- ・人物像をまるごとつかんで表現する。
- ・語り手の心情に寄り添って読む。

「握手」を読むたびに、「ルロイ先生！あなたって人は……」と語りかけたくなる。この湧き上がってくる感情をどんな形にすれば子どもたちと語り合える授業になるかと、ずっと模索してきたように思う。

ステイプ・ジョブズが亡くなった二〇一一年、世界中の人たちが彼のことをいろいろなスタイルと言葉で語っていた。どれを読んでも彼のすごさが伝わってくる。ある雑誌に「ステイプ・ジョブズ その生き方の法則」という文章があった。語りたい人を「法則」という視点で読み解いていく方法だった。彼の価値観を深く掘り下

げて語るその語り方に心を奪われて、「ルロイ修道士」その生き方の法則」という単元を考えた。学習は、ルロイ修道士の行動、心情、価値観に迫るものになった。だが、何かが「違う」気がした。

翌年は、新聞の人物紹介コラムの存在に気づき、人物の魅力を語る力をつけるための単元を考えた。学習は、まずコラムの分析から始まる。用意された多くの新聞記事から、人物の魅力を語る切り口を分析した。その分析した切り口で、子どもたちはルロイ修道士を文章で語る。ルロイ修道士の言葉一つ一つが人物像を物語っていた。人物像を捉えるということは観点をもつことだと学んだ。だが、「違う」という微かな感覚は拭えなかった。

そして次の年、「弔辞」に挑戦した。弔

辞なんて、子どもの世界には無縁でしょ？

子どもに押しつけることにならないの？と、多くの不安を感じつつ書店を歩いた。そのとき出会ったのが『弔辞 劇的な人生を送る言葉』（文春新書）だ。この中に、タモリから赤塚不二夫への弔辞があった。すばらしく整った構成だった。たくさんの時間を共に過ごした人にしか語り得ない愛情があふれていた。自分を育ててくれた人に対する感謝の思いがエピソードを交えながら語られていた。赤塚の言葉が魅力的に引用され、その価値観が的確に表現されている。何より、赤塚を心から敬愛する人としてそれを語るタモリが、ルロイ先生を亡くした「わたし」と重なると思った。学習はこの弔辞を読むことから始まった。「違う」という思いは、ようやく払拭された。



東京都港区立赤坂中学校教諭

甲斐利恵子

福岡県生まれ。専門は国語科単元学習。光村図書中学校「国語」教科書編集委員。著書に、『聞き話し手を育てる』（共著・東洋館出版社）など。



弔辞 劇的な人生を送る言葉

文藝春秋 編
文春新書／2011年

取り上げられている故人は、司馬遼太郎、渥美清、筑紫哲也、木村拓也など、各界で活躍した人々50名である。故人との深い交流があり、心から敬愛しているからこそ語られる言葉がここにある。



弔辞大全Ⅰ 友よ、さらば

開高 健 編
新潮文庫／1986年

編集した開高健は後書きで、弔辞を「たった一回しか死ねない人に贈るたった一回しか書けない作品」と述べている。夏目漱石の死を悼む芥川龍之介の文章など、明治・大正・昭和の作家たちの名文集である。



弔辞大全Ⅱ 神とともに行け

開高 健 編
新潮文庫／1986年

樋口一葉の才能をいち早く評価した評論家による「ああ一葉女史逝けるか、ああ女史は逝けるか」で始まる一文は、文学の小品を読んでいる感覚になる。寺山修司へ向けた唐十郎の惜別の辞など50編を収める。



悼む詩

谷川俊太郎 詩／正津 勉 編
東洋出版／2014年

谷川俊太郎の紡ぎ出す言葉が「悼む」という心を伝えている。ジョン・レノンに、武満徹に、石垣りんに、河合隼雄に。30余名に捧げる詩。東日本大震災から2年後に発表された「そのあと」も収録されている。